

報道関係者各位

2021年2月9日

Okta Japan 株式会社

Okta の企業ビジョン変更のお知らせ

Okta Japan 株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：渡邊 崇）は、Okta, Inc.（本社：米国・サンフランシスコ 以下 Okta）の企業ビジョンが、2021年2月4日（米国時間）より変更になったことのお知らせします。

Okta ではこれまで企業ビジョンとして、「あらゆる組織があらゆるテクノロジーを使えるようにする（Enable any organization to use any technology）」を掲げ、中立的なアイデンティティ・プラットフォームを提供することで、あらゆる組織が一つのベンダーにとらわれずに業務で必要とするあらゆるテクノロジーを使える世界を目指してまいりました。しかし、組織の職場だけでなく、すべての人々の活動においてアイデンティティがますます重要となってきたため、組織だけでなく、個人に焦点をあてたビジョンが必要となってまいりました。

これを踏まえて、Okta は企業ビジョンを次のように変更しました。

Okta の新しい企業ビジョン

「あらゆる人があらゆるテクノロジーを安全に使うことができる世界を実現する（Enable a world where everyone can safely use any technology）」

この新しい企業ビジョンの下で、Okta はあらゆる組織にとって信頼できるパートナーであり続けながら、さらにその範囲を広げて、あらゆる人があらゆるテクノロジーにシンプルかつ安全にアクセスし、個人が持つ潜在能力を最大限に発揮できるよう支援してまいります。個人への焦点を強化することによって、あらゆる人があらゆるテクノロジーを安全に使えるように、Okta のアイデンティティ・プラットフォームの革新をより一層進めてまいります。

Okta の新しいブランドデザイン

Okta の企業ビジョンの変更に伴い、Okta は、[Okta Japan の Web サイト](#)を含む全ての Web サイトのデザインを更新しました。これらの Web サイトは、障害者のアクセシビリティを考慮した Okta の新デザインシステム

Press Release



「[Odyssey Design System](#)」を採用しています。オープンソースの Odyssey は、Okta プラットフォームで一貫した設計モデルを構築することを目的としています。[Web Accessibility Initiative](#) によると、「テクノロジーインクルージョン」の会話で見過ごされがちなアクセシビリティは、世界中で 10 億人以上の障害者にとって問題となっています。これを意識した設計を行うことで、最適な色のコントラストから、デバイスの応答性、支援技術まで、アクセシビリティの多くの課題を解決するのに役立ちます。

Odyssey の詳細は次のとおりです。

- Odyssey で提供されるすべての要素は、[WCAG 2.1AA](#) に準拠しています。
- アクセシビリティの詳細には、より良い色、コントラスト、形状、全体的に改善された UI エクスペリエンス、視覚障害者向けのスクリーンリーダーなどの支援技術が含まれます。
- 主要な [A11Y](#) 機能が全体に組み込まれているため、すべての設計システムコンポーネントはすぐに使用できます。

Okta について

Okta は、あらゆる人のアイデンティティとアクセスを安全に管理するベンダーニュートラルなサービスプロバイダーです。Okta が提供するプラットフォーム「Okta Identity Cloud」により、クラウド、オンプレミスを問わず、適切な人に適切なテクノロジーを適切なタイミングで安全に利用できるようにします。6,500 以上のアプリケーションとの事前統合が完了している「Okta Integration Network」を活用して、あらゆる人や組織にシンプルかつ安全なアクセスを提供し、お客様の潜在能力を最大限発揮できるように支援します。JetBlue、Nordstrom、Siemens、Slack、T-Mobile、Takeda、Teach for America、Twilio を含む 9,400 以上のお客様が Okta を活用して、職場や顧客のアイデンティティを保護しています。